



▲開催地代表挨拶として加藤明彦・愛知同友会会長が登壇
「愛知同友会創立55周年を迎え、会員数が4000名を超えました。全国5万名に向けて、今総会で議案を深く読んで分科会で学び、会社で実践し、語り部となって地域の経営者の仲間を増やしていきましょう」



◀波多野淳彦・中部経済産業局長
「経済が良くなるためには、新しい仕事を始める、投資をする、皆でお金を使うという3つが必要になります。同友会は検証もできて、新しい仕事も互いの学びの中から生むことのできる場所です。この場に集まれた経営者の皆さんの交流から新しい仕事生まれ、さらなる経済の発展になればと思います」

森岡仙太・愛知県副知事▶

「日本の企業の99%は中小企業で、働く人の7割が雇用され、中小企業が元気にならないければ、経済も活性化しません。愛知県中小企業振興基本条例が制定され、現場の声を聞いて支援したいと思います。行政としても総合的な支援をしますが、主役は民間の中小企業。研鑽を積み経営力を高めることが地域社会の活性化に繋がります」



◀青木義彦・総会実行委員長
「全国から大勢の皆さんに参加していただきありがとうございます。今日の学びを交流し、各地同友会で広げていける場になればと思います。2017年の同友会運動と一緒に作っていきましょう」



懇親会



◀会員企業による屋台で愛知の食を提供。全国の会員が舌鼓を打つ。

次回開催地からの呼びかけ▶

第50回中同協総会は宮城県で開催（2018年7月5日～6日）。「オール東北で全国の会員を迎えます」とPRが行われた。



▲▶愛知同友会の会員による物産展も盛況のうちに終了。①は名古屋コーチンのゆで卵を試食の様子。

物産展



写真で見る 第49回中同協総会in愛知

7月6～7日 名古屋国際会議場にて

世界を見据え、地域に生きる ～ 中小企業と同友会の強みを活かして～

7月6日
(木)



◀主催者を代表して挨拶する鋤柄修・中同協会長

「九州豪雨で被害を受けた方へ、お見舞い申し上げます。そのような大変な状況の中で愛知へお越しくださいまして、ありがとうございます。総会議案書に基づいて、実践するのは各地の同友会です。同友会らしい企業づくりのベースとなるのは労使見解。この2日間の学びを実践し、各同友会で広げていってください」

の学びを実践し、各同友会で広げていってください」

来賓挨拶をする大村秀章・愛知県知事▶

「お互いに自己研鑽をして、日本経済の産業の活力を盛り上げていただきたいです。また、中小企業家同友会の皆さんとはこれからも一緒に、付加価値の高い産業を求め、常にチャレンジをしてイノベーションを起こしていきましょう」



◀全体会と2日目の司会は、中部製作所の大野正博氏と丸善運輸の近藤暢子氏（ともに南地区）が務めた。



全体会

▼▶総会議案を深める19の分科会に分かれ、全国の会員と一緒に学び合う。



分科会



総会議案を深めた19の分科会（テーマ一覧）

- I. 情勢認識・同友会運動・平和問題
 1. 世界を見据え、地域に生きる～中小企業と同友会の強みを活かして
 2. 同友会の歴史と理念から何を学び経営と運動に生かすか
 3. 中小企業は平和でこそ発展する～会員としてどのように学び、取り組むか
- II. 企業づくり
 4. 「経営のあり方」を問い、不離一体の姿勢を学ぶ経営指針づくり～経営指針で5年後10年後のビジョンを描こう
 5. 人口減社会における、共に育つ人材育成、地方では何が起きているか～公共と民間が連携し共に育つ地域づくり
 6. 疲弊する地域の中でこそ、描ける未来がある～経営理念を真っ正面から伝え、地域全体で取り組む共同求人
 7. 「ひらがな経営」で社員がキラリ☆～全員が考え、行動できる会社へ。仕組みづくり10年の軌跡
 8. 共に生きる環境を創る経営者の責任～中小企業だからこそその取り組み
 9. 地域のあらゆる力を結び、市場開拓への挑戦～日本の地方とアジアの中核都市を結ぶ
 10. 経営指針の実践から企業経営とエネルギーを一体とする運動へ～大規模エネルギー依存から小規模分散エネルギーへ進めるのは中小企業の使命
- III. 地域づくり・経営環境改善
 11. グローバル化と中小企業憲章推進運動～国連「ビジネスと人権に関する指導原則」を新たな力に
 12. 「千葉県中小企業の振興に関する条例」制定から10年～条例制定の取り組みが同友会、企業、行政を変えた
 13. 景況調査活動から政策要望づくりへ～中小企業家の声を地域社会に発信しよう
 14. 消費税問題の中小企業経営への影響とその対策はどうするか？～中小企業の立場から考える公平・公正な税制
 15. 中小企業金融の未来を探る！～ベンチマーク導入と信用保証制度のあるべき姿を徹底議論
- IV. 同友会づくり
 16. 組織の自主運営こそ、経営者の学び～同友会と企業経営とに不離一体で取り組んで
 17. 青年部は同友会運動を担う次代のリーダーを育成する場～青年部に何を期待し、青年部はその期待にどう応えるのか？
 18. 組織強化のカギは自主運営！～1つ1つの実践の積み上げが活力ある同友会をつくる
 19. 同友会事務局は中小企業運動の専門集団～運動の「半歩先」を提案できるか

対 談



▲ 鋤柄氏と広浜氏による対談では、時折笑いも交え、同友会で学び実践して会社を成長させてきたことが熱く語られた。

全体会

- 2日間の広浜新会長の3つのまとめ
- ①我が同友会の立ち位置を正しく認識
影響力の大きさ、期待の内容と程度、活動の質を知る。
- ②同友会理念を実践で語る
負け犬の遠吠えは誰も聞かない。
- ③同友会運動を内外に広げる
会員に同友会の良さを伝え、理念を外部発信する。



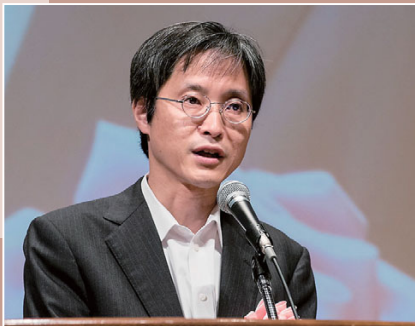
▲「時代認識と企業経営」をテーマに対談を行った鋤柄氏と広浜氏。いまの時代をどう見るかの認識から始まり、「経営者として生きること」「皆さんに伝えたいこと」を語る。

▶コーディネーターは新中同協幹事長の中山英敬氏が務めた。



▲河村たかし・名古屋市長より来賓挨拶

「私も零細企業の出身者ですので、商売の厳しさや価格競争をよく知っています。中小企業の皆様は、良いモノを安く作り日本の国を支えていると感じています」



▲吾郷進平・中小企業庁事業環境部長より来賓挨拶
「重点的な取り組みを紹介します。まず「生産性の向上」のため中小企業と経営強化法を施行しました。次に「下請け中小企業対策」として取引環境を改善。「信用保証制度」では中小企業信用保険法を改正し、ステージ別の資金需要に対応しています。「事業承継」は、経営者の平均年齢が高いため、集中的に取り組む予定です。これからも同友会と連携し、新たなチャレンジの挑戦を支援したいと思います」



▲2007年より中同協会長を務めた鋤柄修氏が、今総会をもって退任。新会長の広浜泰久氏より感謝状が贈られた

中小企業家同友会全国協議会 第49回定時総会アピール

中同協設立50周年(2019年)に向けて全国5万名会員を達成しよう

私たちは、七月六、七日の二日間、「世界を見据え、地域に生きる」中小企業と同友会の強みを活かして「をスローガンに掲げ、中同協第四十九回定時総会を愛知で開催しました。

人口減少、経済の低成長、人材不足など多くの課題に直面しています。特に地域社会・経済は問題が顕在化しており、地域の担い手である私たちの使命と責任は大きく、同友会を地域の隅々に広げていく必要があり

ります。一九五七年に日本中小企業家同友会が七十名で発足して以来、私たちは「日本経済の真の担い手は中小企業である」との自覚と誇りを胸に、「三つの目的」を掲げ、「自主・民主・連帯」の精神にたち、「国民や地域とともに歩む姿勢」を貫きながら、その創造的実践によって、時代とともに発展してきました。そして創立六十周年を迎えた本年、四十七すべての都道府県・一四九四市区町村に組織が広が

り、会員数は四万六千名を超え、五万名を展望できるまで発展しました。二〇一九年中同協設立五十周年を二年後に控え、私たちは、同友会企業一社一社が地域の皆としての自覚を高め、今こそ新たな時代を切り拓くリーダーシップを発揮するために、以下の取り組みを強めましょう。第一に、仲間づくりの輪を広げ、全国で五万名の達成を確実にしていきます。第二に、同友会型会員企

▼閉会後は、全国からの参加者を愛知同友会会員が拍手でお見送り。全国会合での再会を誓い合う。



見学分科会

▶Aコース「エイベックスの多度工場」
敷地3000坪。シンプルでわかりやすいラインで、異常が目で見えてわかる、世界から受注が集中する工場を目指す。



◀Bコース「エステムの調査分析センター」
環境配慮制度Sランクの建物。外皮熱負荷を抑制し、光・地熱など自然エネルギーを活用する環境配慮型の次世代分析棟。



▲Cコース「知多半島の企業連携」
農業(萬秀フルーツ)・飲食業(まるは食堂)・宿泊業(日間賀観光ホテル)のコラボレーションにより地域資源に付加価値を加える。



全国の代表役員の皆さんと記念撮影

新しい課題に挑戦
鋤柄氏は一九八〇年に愛知

同友会に入会、労務労働委員長や第三支部長などを歴任して、九五年に同代表理事に就任しました。二〇〇二年より中同協幹事長を、〇七年から同会長を務められました。その間「金融アセスメント法制定運動」や「中小企業憲章制定・中小企業振興基本条例推進運動」、「エネルギーシフト」など、同友会運動は日々発展を遂げてきました。そんな全国同友会運動の先頭に立ち、十五年にわたって牽引してきた鋤柄氏に対し、中同協顧問の田山謙堂氏(千代田エネルギー会長)をはじめとする参加者からは、鋤柄氏への思い出や、今後も同友会運動を牽引されることへの期待、また陽子夫人への感謝の言葉が語られました。鋤柄氏は「今後の活動としては、中同協創立五十周年五万名会員達成に向け『全国行脚』の準備中です」と、新たな同友会運動への意気込みを語り、退任の辞とされました。

道なきみちを

鋤柄修氏(中同協前会長)歡送会

7月7日